



「2学期のスタートです」

校長 村山 大介

保護者の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動に御理解、御協力をいただき心より感謝申し上げます。今年は例年になく厳しい暑さが続きましたが、皆様お変わりないでしょうか。

本日から2学期がスタートしました。今年の夏は猛暑日が続き、暑さが厳しい中で外出を控えられた御家庭も多かったのではないのでしょうか。夏季休業中、熱中症対策を講じながら部活動に真剣に取り組む生徒の逞しい姿を見て、たいへん頼もしく感じました。

始業式では夏季休業中の振り返り、2学期頑張ることについて話をしました。2学期は全ての学年にとって大切な時期です。1学年は9月下旬に移動教室があります。2、3学年にとっては卒業後の進路を決める現場実習があります。12月には日頃の学習の成果を発表する「かつとく祭」があります。一人一人が目標をもって取り組んでほしいと願っています。

《生徒のみなさんへ》

長期の休業日明けは、生活リズムの変化によって、体調を崩したり、やる気が起きなかったり、さらに今年は残暑が厳しいことから、家から外に出たくない気持ちが強くなってしまったりするかもしれません。朝起きたら一番に「今日は学校でどんな楽しいことがあるかな」と考えてみてください。そして、学校に着いたら、まずは友達や先生とあいさつを交わしてみると一日が気持ちよく始まります。困ったことがあったら先生やスクールカウンセラーの先生に相談してください。悩みを抱え込まない生活をしましょう。

保護者のみなさま、2学期も教員が一丸となってお子さま一人一人を大切にする教育に努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

「夏の研修会」

支援部主任 関根 和広

夏季休業中の7月31日(木)『実践に活かす応用行動分析～支援の工夫と現場での展開～』を研修のテーマに、今年度も東京学芸大学教育学部特別支援科学講座非常勤講師の加藤慎吾先生をお招きして、本校体育館で実施しました。加藤先生は、本校で10年以上、外部専門員として応用行動分析学に基づいた具体的な支援策を、担任や関係する教員に御教示いただいております。また研修会には、本校の教員の他、近隣の小学校や中学校の先生、また就労支援施設の職員の方なども、参加されました。



研修会の前半では、「応用行動分析学に基づく行動支援の基本的な枠組み」として、行動と環境の関係に注目し、“なぜ、うまくいかないのか”その原因を考え、特に行動の前後関係に着目すること、そして行動が起きて維持していくには、3つの条件が十分に備わっていることが必要であることを学びました。

後半は、3人程度のグループになって演習を行いました。演習では、いくつかの事例から「支援の言語化」について、行動支援の2つの方向性（適切な行動の促進・成功している行動随伴性）や言語化のプロセスなどを学び、グループワークで意見交換をしながら、充実したディスカッションができました。

今回の研修を通して、参加した方々がこの研修会で学んだことを、日々の教育活動や支援の内容に生かしていただき、子供達のよりよい生活や更なる成長につながることを願っています。



学校便りは音声でも確認できます。



学校便りの配布時期と学校サイト掲載日は前後する場合があります。